

日本保健医療行動科学会

HEALTH BEHAVIORAL SCIENCE NEWS LETTER

第104号

2022年3月3日発行

発行 日本保健医療行動科学会

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘 3-15-1 奈良学園大学内

Email: info@jahbs.info

Tel: 050-7115-5154

Web サイト: <https://www.jahbs.info/>

発行責任者 中川 晶

編集責任者 馬込武志, 吉岡隆之

第36回日本保健医療行動科学会学術大会 大会長挨拶 (第二弾)

樋口倫子 (明海大学)

寒々しい日々の中にもようやく陽ざしが力強さを取り戻し、春の気配が感じられるようになってきました。2022年6月18日(土) - 19日(日)に、Web開催される第36回日本保健医療行動科学会学術大会の、2回目のご案内をさせていただきます。大会実行委員会は、アイデアを出し合い捏ね合い醸成させ、Web開催ならではの多彩なプログラムを準備致しました。

本学術大会では、「対話する保健医療」をメインタイトルとして、全てのプログラムは「対話の実装」という視点が組み込まれています。基調講演「対話と共感が生み出す Well-being —ネットワーク型支援の現状と課題」では、これまでの心理職として Wellbeing 支援に携わってきた経験からの学びや、個別支援に偏りすぎていた課題などを振り返ります。さらには、オープンダイアログに代表されるネットワーク型支援について考える機会にしたいと思っています。心理領域に限らず、保健医療領域においても、問題は個人の内部にあるということが前提となっていた経緯があります。例えば、うつを患っているのは個人の問題のように見えますが、それを生み出すきっかけとなっている環境要因があり、わたしたち支援者は、もっと「社会的」な視点を携え「私たちごと」とする姿勢で支援を問いただす必要があると感じています。

特別講演「保健医療のためのオープンダイアログ」では、精神科医の斎藤環先生にご講演いただきます。オープンダイアログでは、関係者が集まって、クライアントの主観を尊重しながら、意見を一つにまとめようとせず、様々な意見の共存を目指して対話を続けます。フィンランドで始まったオープンダイアログは世界中で注目され、日本でも多くの人々がその哲学性に魅了され、実践されている治療チームも増えてきています。見通しが立たない状況にあっても、ワクワクした気持ちで、共にいるという対話実践についてお話いただきます。

シンポジウム「相互理解で多職種連携は深化する —リフレクティングの活用によるフィージビリティスタディ」では、岡美智代先生をはじめ学会企画共同研究メンバーが、1年かけて取り組んできた、多職種連携の相互理解に向けた研究成果を発表いただきます。保健・医療・福祉・心理・教育の領域のコミュニケーションは、より平等で対等な関係のもとに変化し続けています。それは、コミュニケーションの取り方の平等性や対等性を指すだけではありません。よりよい生き方やあり方を実現する支援として、介入・治療・教育というモノローグの姿勢から、協働・相互接続・創造というダイアログの姿勢の実践が必要となることを意味しています。

こうした新しいスタイルの保健医療の実現にむけて、4つのワークショップを準備しました。1日目には、道信良子先生に「エスノグラフィック・インタビュー」を担当いただきます。対象となる人の世界に近づくために、どのような問いを立て、どのような質問をし、どのように分析すればいいのかを、参加者の皆さんに考えていただきます。諏訪茂樹先生の「チームワークのためのカンファレンス・トレーニング」では、多職種が協働するチームワークに欠かすことのできない対等で率直な話し合いを体験いただきます。2日目の、林哲也先生に担当いただく「信念対立解明アプローチ」では、意見が対立した際に、自他の信念の構造を「解明」することで、対話と相互理解を促進させる試みを体験いただきます。そして、大会実行委員会のメンバーが「オープンダイアログ」を担当します。こころが軽くなり、希望が見いだせる対話の空間を、皆様とつくってみたい。この他、募集型交流集会、モーニング・ヨガとユニークな内容が続きます。

従来の変容を求める保健医療から「共に変わる」「関係の中で意味は変わる」という対話型の保健医療の実践に向けて、皆様と対話しアイデアを創発する機会にしたいと思います。多くの皆様の一般演題(口頭・ポスター)へのエントリー、ご参加を実行委員会一同心からお待ち申し上げます。



第 36 回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内 (第 3 報) [2022.3.1.]

- テーマ 対話する保健医療
- 会期 2022年6月18日(土)・19日(日)
- 開催方法 Web開催
- 大会長 樋口倫子(明海大学)



※最新情報は随時「第36回大会専用サイト (<https://gakujutsushukai.jp/2022jahbs/>)」に掲載されます。

(本学会 Web サイト (<http://www.jahbs.info/>) からリンクが設定されています。)

※第36回大会(裏面はプレイベント)のチラシを本ニュースレターに同封いたしました。一人でも多くの方にご参加いただけますように皆さまのご協力をお願い申し上げます。

■ **大会プログラム・日程** ※プログラム・日程は一部変更される場合があります！

< 2022年6月18日(土) >

09:00 - 10:00 (拡大理事会、顧問・評議員会)

10:10 - 11:10 (総会)

11:15 - 11:25 【開会式】

11:25 - 12:10 【基調講演】

対話と共感が生み出す Well-being —ネットワーク型支援の現状と課題

講師：樋口倫子(第36回学術大会長、明海大学)

座長：中川晶(京都看護大学、なかがわ中-of島クリニック)

12:15 - 13:15 【募集型交流集会】

13:30 - 15:00 【シンポジウム】

相互理解で多職種連携は深化する —リフレクティングの活用によるフィージビリティスタディ

座長：岡美智代(群馬大学)

1. 「保健医療領域における多職種連携の概要と困難事」 発表者：印東綾乃(群馬大学大学院)

2. 「職種によるコミュニケーションの違い —RIAS による文献検討から—」

発表者：二瓶映美(国際保健医療福祉大学)

3. 「多職種連携を深化するリフレクティングへのケースビネットの活用

—ケースビネットの定義や意義の明確化—」 発表者：小坂素子(神戸女子大学)

4. 「対話が醸す職種への相互理解 —リフレクティングを活用した

質的分析のフィージビリティスタディ—」 発表者：野呂瀬崇彦(帝京大学)

15:10 - 17:10 【ワークショップ】(事前に参加登録が必要です)

ワークショップ1：エスノグラフィック・インタビュー

講師 道信良子(札幌医科大学)

概要：保健・医療・福祉のテーマにそって、エスノグラフィックなインタビューを行うための問いの立て方、実際のインタビュー、その分析の仕方などを、参加者全員で考える参加型ワークショップです。

保健・医療・福祉の現場で、エスノグラフィック・インタビューができるようになり、対象となる人の世界に近づく楽しさを味わっていただければと思います。

ワークショップ2：チームワークのためのカンファレンス・トレーニング

講師：諏訪茂樹(東京女子医科大学)

概要：患者中心の安全で良質な医療を実現するためには、多職種が協働するチームワークが欠かせません。そして、チームワークにとって鍵となるのが、互いの専門性を尊重しながら、対等な立場で率直に話し合うカンファレンスだと言えます。本ワークショップでは実際に話し合い、振り返ることを通して、効果的な話し合いの方法に気づき、身につけることを目指します。クイズ形式で楽しく体験できますので、お気軽にご参加下さい。

18:00 - 19:30 【懇親会】

< 2022年6月19日(日) >

09:00 - 09:30 【モーニング・セッション】

モーニング・ヨガ 講師：村上真(株式会社ビーイングモード)

09:30 - 11:30 【一般演題(口頭発表)】 一般演題A・B・C

12:15 - 13:15 【一般演題ポスターセッション】

13:30 - 15:00 【特別講演】

保健医療のためのオープンダイアローグ

講師：斎藤環(筑波大学医学医療系)

座長：樋口倫子(明海大学)

15:10 - 17:10 【ワークショップ】(事前に参加登録が必要です)
ワークショップ 3: 信念対立説明アプローチ

講師: 林哲也 (明海大学)

概要: 私たちは相互理解を望んで対話をします。しかし相手とのあまりにも著しい価値観の相違が障壁となり、衝突や疲弊を経験することもあります。私は誠実なのに、「あの人は何もわかっていない」。それは互いに、自らの疑義なき確信が向かい合う「信念対立」の問題かもしれません。そんな自他の信念の構造を「説明」することで、対話と相互理解を促進させる試みをしてみたいと思います。

ワークショップ 4: オープンダイアログ

担当: 大会実行委員会

概要: オープンダイアログは、フィンランドで開発された治療モデルで、対等性・透明性・共感性・多様性が担保されたネットワーク基盤型の支援法です。ミーティングの参加者は患者、家族、医師、看護師、セラピストらで、参加者全員が平等な立場から、クライアントの心配ごとについて話し合います。対話するだけで、こころが軽くなり、希望が見いだせるオープンダイアログの醍醐味を、参加者の皆さんと体験してみたいと思います。

16:20 - 【閉会式】

■ 事前参加登録

参加登録手続きは、大会 HP サイドメニューの「事前参加登録」からお願いします。参加登録するには学術集会 JP (大会 HP システム) への新規登録が必要です。大会 HP の上部「ログイン」ボタンより新規登録を行ってください。

◆ワークショップの参加登録も、大会の事前参加登録の手続きを行う際に同時に行ってください。

<登録期間> 2022年3月1日(火)～6月8日(水)

<大会参加費> 会員 5,000 円、非会員 6,000 円、大学院生 3,000 円、学部学生 2,000 円

1) 参加登録期限

・2022年6月8日(水)の参加登録・参加費支払確認分までとさせていただきます。お支払完了後、事務局確認まで時間差がありますので、余裕をもってお支払ください。

2) 参加費支払

①参加申込時にインターネット決済(カード決済)

②下記銀行への口座振込

銀行名: 三菱 UFJ 銀行、店名: 阿佐ヶ谷支店(156)、種目: 普通、口座番号: 0487053

口座名: 第 36 回日本保健医療行動科学会学術大会 大会長 樋口倫子

- ・お支払完了を持って登録となります。
- ・登録フォーム(大会 HP)で登録をされましても、お支払がない場合は、登録完了となりません。
- ・振り込み手数料は申込者ご自身でご負担ください。

■ 一般演題登録(口頭発表・ポスター発表)(採択審査があります)

<受付期間> 2022年3月1日(火)～4月15日(金)

<発表形式>

◆口頭発表「研究報告」「実践・活動報告」

- ・発表時間は 12 分、質疑応答は 8 分で、計 20 分です。
- ・当日発表時間になりましたら、オンライン(Zoom)にてパワーポイント等を画面共有しながら発表していただきます。その後、座長の進行のもと質疑応答と交流の時間を設けます。

◆ポスター発表「研究報告」「実践・活動報告」

- ・発表者にはあらかじめ PDF 形式にてポスターデータをご提出いただき、参加者は大会期間中に Web 上で自由に閲覧できます。大会 2 日目のポスターセッションの時間(12:15～13:15)に、Zoom にて発表者と参加者間でディスカッションを行っていただきます(個別の発表時間は設けません)。
- ・採否の決定は 2022 年 5 月 1 日頃(予定)となります。
- ・採択された場合、ポスターデータの提出期限は 2022 年 5 月 31 日(火)となります。

<演題登録及び抄録原稿提出>

- ◆演題の登録と同時に抄録原稿の提出をお願いします。抄録の採択審査を行います。
- ◆審査結果は登録締め切り後 1 ヶ月以内(ポスター発表は 2022 年 5 月 1 日頃)に連絡する予定です。
- ◆発表日程と順番は 5 月下旬頃までに連絡する予定です。
- ◆発表内容は保健医療行動科学に関連する研究または健康行動に関する実践・活動等で、国内外を問わず未発表のものに限ります。
- ◆人および動物が対象である研究の場合は、倫理的配慮、倫理委員会等による承認について抄録の本文中に明記してください。
- ◆一般演題の発表者は、共同発表者を含めてすべて会員である必要があります。非会員の方は、入会案内をご参照の上、本学会入会申請 Web サイトから入会手続きを行ってください。なお、会計年度(年会費)の関係もあり、3 月中の入会については、次年度(4 月)入会として取り扱います。

◆抄録様式

- ・用紙はA4サイズ1枚（本文は2段組み）です。「研究報告」と「実践・活動報告」では書式が異なります。
- ・抄録の書式と雛形及びポスターデータの雛形は、大会 HP からダウンロードしてください。

◆演題登録・抄録提出方法

演題登録続きは、大会 HP サイドメニューの「演題登録」からお願いします。演題を登録するには学術集会 JP（大会 HP システム）への登録が必要です。大会 HP の上部「ログイン」ボタンより新規登録を行ってください。登録後（ログイン後）、「論文投稿」タブを選択し、抄録原稿の提出をお願いします。

■ 交流集会企画の募集（採択審査があります）

募集型交流集会では、会員および大会参加者相互の学術的な交流、職域・所属を超えた対話の促進とネットワーキングの場の提供を目的とします。複数会員のグループでご応募ください。各グループで保健医療行動科学に関連するテーマを設定していただき、自由な形式で発表、討議、意見交換、交流を行っていただきます。

- ・企画者の責任においての開催になることを考慮した上でご応募ください。

<テーマ>

保健医療行動科学に関連するテーマから幅広く募集いたします。学術的なテーマはもとより、広く会員の関心・情報ニーズにあう内容、会員間のネットワーキングに資する内容の企画をお待ちしております。

<受付期間> 2022年3月1日（火）～4月15日（金）

<開催日時> 2022年6月18日（土）12:15～13:15

<開催形式> 持ち時間60分の自主運営、グループによる自由形式の発表および参加者との意見交換、交流

<企画の登録及び抄録原稿提出>

◆企画の登録と抄録原稿の提出をお願いします。抄録にもとづき企画の採択審査を行います。審査結果は5月中旬ごろにご連絡する予定です。

◆募集型交流集会の企画者（申込者）は、共同企画者を含めてすべて会員である必要があります。非会員の方は、入会案内をご参照の上、本学会入会申請 Web サイトから入会手続きを行ってください。なお、会計年度（年会費）の関係もあり、3月中の入会については、次年度（4月）入会として取り扱います。

◆抄録様式：用紙はA4サイズ1枚（本文は2段組み）です。抄録の書式と雛形は、大会 HP からダウンロードしてください。

◆企画登録・抄録提出方法

企画登録続きは、大会 HP サイドメニューの「交流集会企画の募集」からお願いします。企画を登録するには学術集会 JP（大会 HP システム）への登録が必要です。大会 HP の上部「ログイン」ボタンより新規登録を行ってください。登録後（ログイン後）、「論文投稿」タブを選択し、抄録原稿の提出をお願いします。

■ 大会運営事務局・問い合わせ等

第36回日本保健医療行動科学学会学術大会実行委員会事務局 担当：瀬在泉（大会事務局長）

〒279-8550 浦安市明海1丁目明海大学管理研究棟1701

E-mail: jahbs2022@gmail.com

第36回学術大会プレイベント：オンライントーク「対話する保健医療」

日時：3月19日（土）19時30分～21時 会場：オンライン Zoom 研修室

※申込方法・詳細は同封のチラシをご参照ください。

第36回学術大会プレイベントとして、3名の会員の先生方をスピーカーとしてお招きし、「対話」についての話題提供を頂きます。大会に向けたプロローグとして、医療、看護、福祉、心理など様々な現場における「対話」の実践から、「対話する保健医療」について考えたいと思います。

会員の皆様の交流の場として、また非会員の方々にも、本会に関心をお持ちいただく機会として、ぜひ多くのご参加をお待ちしております。

<ゲストスピーカー：テーマ>

■大門恭平（医療法人生和会 SDX 研究所）：「異分野との共創」

■岡美智代（群馬大学大学院保健学研究科）：「『聞き書き』で深まる対象者と医療者との対話—変えることよりわかること—」

■日高直保（仁愛大学附属心理臨床センター）：「ライフヒストリーと心理臨床—2つの対話の交差点—」

（第36回学術大会実行委員会 林 哲也）

挿絵ギャラリー（第103号からの続き）

これまでニュースレター（第81～99号）に掲載された挿絵等（中川 晶 作）を順次、一堂に掲載いたします。今号では第92号に掲載された挿絵3点を掲載しました（コメントは当時のものです!）。（Web版はカラーです）

（第81～86号掲載の挿絵は第100号に、第87～91号掲載の挿絵は第103号に一堂に掲載済みで、本学会Webサイトでも公開されています!）



懇親会での伝統ダンス（第6回国際会議）



教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学 第2版』の発行について

企画運営委員会 教科書編集幹事 諏訪茂樹

本学会では社会貢献の一環として、保健医療分野における初学者のための教科書（入門書）『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学』（日本保健医療行動科学会雑誌第31巻別冊）を、2017年に発行いたしました。その後、複数の保健医療職養成校において教科書や参考書に指定されるなど、当初の目的を達成して参りました。しかし、発行から5年が経過し、保健医療行動を取り巻く環境も変化したことから、この度、同書第2版（日本保健医療行動科学会雑誌第36巻別冊）を発行することとなりました。第2版では次のような目次構成となり、3月31日発行となります。会員の皆様には配布させていただきますので、第1版と同様に第2版もご活用いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

<p>I 講義編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行動科学とは 2 保健医療行動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療行動とは 2) 動機づけ理論 3) 行動変容ステージ 4) 脳科学的背景 5) 社会的背景 6) 文化的背景 7) 哲学的背景 8) 当事者研究 3 患者-医療者関係とコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者-医療者関係 2) 患者の権利と医療者の義務 3) コミュニケーション技術 4 保健医療専門職におけるプロフェッショナリズム <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師 2) 歯科医師 3) 看護師 4) 助産師 5) 保健師 6) 理学療法士 7) 作業療法士 8) 言語聴覚士 9) ソーシャルワーカー 10) カウンセラー 	<ol style="list-style-type: none"> 5 多職種・市民連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) チーム医療 2) 患者会と家族会 3) 地域包括ケア 4) 病院ボランティア 6 様々なアプローチ <ol style="list-style-type: none"> 1) 動機づけ面接法 2) コーチングとティーチング 3) ナラティブ・アプローチ 4) セルフマネジメント支援 5) カウンセリング 6) 回想法 7) 認知行動療法 8) ソーシャルワーク 9) ホリスティック・アプローチ 10) 政策によるアプローチ <p>II 演習編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 価値交流学习 2 コミュニケーション技法1：反応を示しながら聞く 3 コミュニケーション技法2：要約する 4 コミュニケーション技法3：共感する 5 コミュニケーション技法4：会話のときの姿勢 6 ナラティブ・クエッションング 7 オープンダイアローグ 8 内在化と外在化のための質問 9 協力ゲーム 10 多職種連携のためのケーススタディ
---	---

「専任査読委員制度」のご案内

編集委員会 委員長 樋口倫子

すでに本学会ニュースレターや Web サイトでもご案内いたしましたように、昨年（2021年）の10月に本学会雑誌の「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」の運用が始まりました。このシステムの導入を機に「専任査読委員制度」について理事会で検討しておりましたが、このたび導入が決まりましたのでお知らせいたします。

これまで本学会雑誌の投稿論文の査読は、慣例的に主に本学会役員に依頼しておりましたが、2022年6月以降は「専任査読委員制度」に基づき依頼することになります。詳細は以下の「専任査読委員に関する申し合わせ」のとおりです。会員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。ご意見やご質問等がございましたら編集委員会事務局（edit@jahbs.info）までご連絡ください。

日本保健医療行動科学会雑誌 専任査読委員に関する申し合わせ（2022年2月11日）

1. 専任査読委員選定規準
 - A 査読委員（役員）
 - 1) 本学会の顧問、理事、監事または評議員であること
 - 2) 保健医療行動科学に関わる論文の査読が可能である者
 - B 査読委員（会員）
 - 1) 本学会の会員であること
 - 2) 以下の条件のすべてに該当する者
 - ①保健医療行動科学に関わる論文の査読が可能である者
 - ②博士の学位を有する者、もしくはそれに準ずる研究上の業績を有する者
 - C 査読委員（会員以外）
 - 1) 本学会の会員以外で、編集委員会が必要に応じて特に認めた者
 - 2) 保健医療行動科学に関わる当該論文の査読が可能である者
2. 専任査読委員の役割と責任
 - 1) 専任査読委員は、任期中に依頼を受けた本学会雑誌の投稿論文を査読する。
 - 2) 査読の際には、投稿規定を熟知し、査読ガイドラインに従って査読する。
 - 3) 査読期限（1ヶ月以内、再査読は2週間以内）を厳守、あるいは問題が生じた場合には速やかに編集委員会に連絡する。
3. 専任査読委員の任期と公表
 - 1) 専任査読委員の任期は3年とし、再任は妨げない。
 - 2) 理事会で承認された専任査読委員は公表され、本学会雑誌に掲載される。

☆ 日本保健医療行動科学会「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集 ☆

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において45歳未満の正会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規（2013.6.22.最終改定版）」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。2022年度受賞の応募期限は2022年3月末日です。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は1年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

日本保健医療行動科学会「第13期理事・監事選挙」結果の公示（2022年1月15日開票）

■第13期理事・監事（任期：2022年6月1日～2025年5月31日）

A 理事： <健康科学系（1名）> 吉岡隆之
<看護学系（3名）> 岡 美智代、安酸史子、宮本眞巳
<歯学系（1名）> 深井穫博
<医学系（2名）> 中川 晶、末松弘行
<心理学・福祉学系（1名）> 梓川 一
<社会学系（1名）> 諏訪茂樹

B 理事（5名）： 樋口倫子、任 和子、蓮井貴子、林 哲也、大門恭平

監 事（2名）： 花家 薫、河口てる子

（選挙管理委員会：藤田裕一（委員長）、大門恭平、吉岡隆之）

本で紹介

『保健医療におけるコミュニケーション・行動科学 第2版』

監修：高江洲義矩，編者：深井穫博，医歯薬出版，2022年2月発行（全259頁）

紹介者 本学会理事 深井穫博

本書は2002年に出版され、保健医療分野におけるコミュニケーションと行動科学を一冊の成書としてまとめたわが国で最初の書籍です。その後、これまで学生教育等に活用されながら増刷を繰り返してきました。執筆者の多くが歯学領域ということもあり、口腔保健を中心とした内容がいくつかの章で取り上げられましたが、本書のタイトルにあるように歯科にとどまらず、保健医療分野で広く用いられる書籍として企画されたものです。高江洲先生と共に初版の編集にかかわった深井が、第2版では編者として改訂作業にあたりました。そして第2版では、初版の構成を維持しながら、新たな科学的知見と社会環境の変化を踏まえて内容の追加と充実を図ることを編集方針としました。

第2版までのこの20年間の変化は大きいものです。健康格差をもたらす社会的決定要因という社会疫学の分野から示された新たなエビデンスによって、個人を対象とした生活習慣改善（行動変容）の限界が指摘されるようになってきました。しかしその一方、長寿社会における社会保障制度の維持と誰一人取り残されることなく保健医療介護サービスを受けることができるUHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の実現はグローバルに共有された目標となっています。その中で、保健医療分野におけるコミュニケーション・行動科学は、ヘルス・ヒューマニティーズ、プロフェッショナルリズム、および健康寿命延伸を目指した行動変容のための健康教育・保健指導の充実等の観点からその重要性が益々高まってきています。また、現在なおpandemicにあるコロナ禍においても国民および保健医療専門職の行動変容の必要性が強調される一方、改めて警鐘を鳴らされたインフォデミックスと情報リテラシーの向上の課題が浮き彫りになってきました。

このような背景を踏まえて、本書の目次は下記のようになっています。いずれの章も独立した内容となっているので、研究者、臨床を含む地域における実践者および政策にかかわる行政関係者、そして学生等が、それぞれの必要性に応じ、興味のある内容から読み進めることができます。巻末には文献をできるだけ多く収載することにしました。

本書籍が、保健医療分野のコミュニケーション・行動科学の発展と人々と社会のヘルプロモーションの一助となれば幸いです。

<本書の目次>

■Part 1. コミュニケーション

- 第1章 保健医療におけるコミュニケーション
- 第2章 コミュニケーションにおける情報
- 第3章 健康情報・ヘルスリテラシーの理論と実際
- 第4章 口腔健康情報の役割
- 第5章 コミュニケーションの手段と倫理
- 第6章 医療現場のコミュニケーション
- 第7章 施設・地域保健医療のコミュニケーション
- 第8章 コミュニケーション技法と評価

■Part 2. 行動科学

- 第9章 どうして行動科学が必要となったか
- 第10章 人の一生の行動
- 第11章 健康行動の理論・モデル
- 第12章 ヘルスプロモーションと健康教育
- 第13章 口腔健康行動
- 第14章 受診・受療行動
- 第15章 患者と保健医療者の行動

日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中

学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。雑誌の発行は年2回（6月及び12月の予定）です。投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。

投稿論文は「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」にて受け付けとなります。投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト（<https://www.jahbs.info/>）の『雑誌』投稿についてのページに掲載しています。

☆ eメールアドレス登録の【重要なお願い】 ☆

会員管理システムの導入に伴い eメールアドレスの登録が必須となりました。eメールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局までお知らせください。すでに eメールアドレスをご登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。なお、eメールアドレスを利用されていない会員の方は、ご案内の方法や会費納入等について相談させていただきますので、事務局(050-7115-5154)までご連絡をお願いいたします。



事務局便り



- 2021年度会費（2021年4月1日～2022年3月31日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください。
- 会員管理システム導入に伴い、会費の納入は、オンラインでの銀行振込（りそな銀行宛）またはクレジットカード決済（各種）となります（基本的にこれまでのゆうちょ銀行への振込・振替は利用できません）。オンライン決済では複数年の会費を同時に決済することはできません（複数年の会費の同時決済をご希望の場合は本学会事務局にご相談ください）。詳しくは本学会 Web サイトをご参照ください。
- 第36回学術大会（裏面はプレイベント）のチラシを同封いたします。皆さまお誘い合わせの上、一人でも多くの方にご参加いただけますようご協力をお願い申し上げます。
- 現在予定されている支部活動案内はございません。最新の情報は本学会 Web サイトに掲載いたします。
- 2013年6月（第10期）以降の理事会議事録及びニュースレター（第81号～第99号）を本学会 Web サイトの「会員専用ページ」に掲載しています。「会員専用ページ」を閲覧するためには、閲覧専用のユーザー名とパスワードが必要です。ニュースレター第100号以降は本学会 Web サイトで公開しています。
- 「入会のご案内」は本学会 Web サイトからダウンロードできます。会員勧誘のご協力をお願いいたします。
- 退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルを e メールに添付して事務局に送付してください。

※事務局員の就業日時は、基本的に月曜日と木曜日の10:00～15:30です。（飯高）

<<編集後記>>

第36回大会の詳細が掲載されています。前回と同様に Web 開催となりました。大会実行委員会のメンバーが「対話」し「連携」してチーム一丸となって準備をすすめてこられました。ぜひご参加いただき、様々な意見を出し合い、対話・共存をご体験ください。本学会では多分野、多職種、男女共同参画がかなり実現されているように思いますが、特に会員割合の少ない20～40歳世代の方々にも積極的にご参画いただき、多世代参画も実現されることを願っております。その他、学会編集教科書第2版、投稿論文の専任査読委員制度のご案内、本の紹介、挿絵ギャラリー（中川会長作）が掲載されていますので、そちらもぜひご覧ください。第13期理事・監事選挙結果も掲載されています。本学会として初めての電子投票による選挙でしたが、全体の投票率はやや上がり約23%でした（前々回約17%、前回約19%）。2021年度は「会員管理システム」「投稿・審査システム」「電子投票」の導入など本学会におけるDX（Digital Transformation）の黎明の年となりました。先日の理事会で来年の第37回大会の大会長が決まり、DXにも詳しい若い世代の大門恭平理事が引き受けてくださることになりました。会員のみなさまのご協力、ご参画を得て、多世代による「対話」「連携」のもと、準備がすすめられることを期待しております。最後になりましたが、今後ともデジタル化・システム化に伴う会員サポートは丁寧にさせていただきますので、お困りのことがございましたら事務局（info@jahbs.info）までご連絡ください。もちろん本学会らしく可能な限りアナログ的なことも尊重させていただきたいと思っております。（吉岡）